

第三者意見

大阪有機化学工業グループは、昨年に引き続き、今年度のCSRレポートの作成につき、CSR経営活動に関する評価を株式会社環境管理会計研究所に依頼し、第三者意見を表明していただきました。

当レポートに記載された当社グループのCSR活動については、國部克彦氏(神戸大学大学院経営学研究科教授)および公認会計士の梨岡英理子氏から、当社の渡辺哲也経営企画本部長がインタビューを受けるとともに、当社CSR担当が質疑を受けております。

その際、当社から統合報告書を見据えた今後のスケジュールをもとに今年度のCSRレポートの位置づけの説明を行い、昨年度のCSR活動の総括と自己評価の説明を行った上で、価値創造モデル、カーボンニュートラル、マテリアリティとKPIについての社内マネジメントおよび今後の課題について、質疑応答が活発に行われました。これらの取り組みをもとに、当社グループのCSR活動に対する総評と助言をまとめた意見書をいただきました。



CSR経営評価意見書

大阪有機化学工業株式会社 御中

<目的と実施した作業についての概要>

大阪有機グループの事業と関係のない第三者として、同社が作成する「CSRレポート2021」に記載されているCSR経営活動の評価を行うことにより、報告書の信頼性を高めることを目的として所見を述べます。
CSRレポートに記載された大阪有機グループのCSR経営活動について、渡辺哲也執行役員(CSR担当)へのインタビューを始め、本社担当者への質疑を実施しました。

<評価意見>

大阪有機グループは、CSRレポートを製作して2年目ですが、価値創造ストーリーを開示し、昨年策定されたCSR課題(マテリアリティ)について目標やKPIを開示するなど、より具体化された内容となっています。
企業理念をもとに、大阪有機グループがどのような価値を創り社会に貢献していくのかという長期的なストーリーを開示され、同時に過去から培われた大阪有機の強みを示されました。社会の動きに対応した価値を提供し続けていることが分かります。今後はそのストーリーをどのようなビジネスモデルを使って実現していくのかということが知りたいと思います。アウトプットやアウトカムについても、概念を指標化して開示できれば、より分かりやすく伝わると思われまます。
冒頭に記載されている安藤昌幸社長と正覚寺住職 獅飼秀徳氏との対談では、「サステナブル(持続可能)であることの本质が語られ、何を大切に活動しているのかについて考えられていることが伝わってきました。ルールで締め付けるのではなく、モラルを向上させることで最適な行動をとれること、大阪有機グループの目指すものが感じられる記事だと思えます。サステナビリティは仕組みの問題であり、経営戦略の中にその仕組みが取り込まれ、大阪有機グループの強みと社会課題がつながり、社員ひとりひとりの活動が大阪有機グループのアウトプット・アウトカムにつながることを期待されます。

個別の課題について2点コメントします。
カーボンニュートラルについて、2030年目標(30%削減)と2050年目標(実質ゼロ)を開示され、具体的にどのような活動をして目標を実現していくのかが示されています。現在緊急の社会課題として世界中で取り上げられており、業種や規模に関係なく対応が求められているものです。大阪有機グループにおいては「カーボンニュートラル実現検討委員会」を設置して具体的な手段と取り組みを開示されており、高く評価されるものです。計画に沿った今後の活動に期待します。

情報開示について、大阪有機グループのCSRレポートは、必要事項は開示され、これからの充実に期待されます。社内インタビューでお聴きしたところ、開示されていない良い具体例も多く、情報をより積極的に開示され、従業員を通じて社会を良くすることを考えていくことが求められるのではないかと思います。外部への開示を通してモチベーションが向上し、さらなる活動につなげ社会を豊かにしていくことも、企業の社会的な役割の一つです。
CSR情報は、企業価値に影響を与える項目であり、情報開示の重要性は高まっています。同時にタイムリーな情報開示が求められます。今後ますます財務情報とCSR等財務情報が企業の価値判断に利用されることが想定されるため、タイムリーな開示ができるマネジメント体制の構築が求められると思います。大阪有機グループの製品で社会課題を解決するとともに、活動を通じて社会を良くしていくことを期待しております。

2021年6月30日

株式会社 環境管理会計研究所

國部克彦
國部克彦(取締役/神戸大学大学院経営学研究科教授)
梨岡英理子
梨岡英理子(代表取締役/公認会計士・税理士)

CSR経営評価意見書はウェブサイトに掲載しています。<https://www.ooc.co.jp/csr/report/>

第三者意見をいただいて

昨年度、当社グループにとって最初となるCSRレポートを発行いたしました。今回のレポートでは、前回ご指摘いただいた点はもちろんのこと、各ステークホルダー様からのさまざまなご意見を参考に、KPIおよび目標値を設定し、CSR課題の具体化に努めました。今後は、アウトプットやアウトカムについても、概念を指標化し開示することで、よりわかりやすいレポートにしていきます。

今回はカーボンニュートラルについて、具体的な数値目標を設定しました。事業を拡大しながら、温室効果ガスの排出量を削減していくことは、当社グループのような化学企業にとって、非常にハードルが高いものです。しかし、必ず成し遂げなくてはならないことであると認識しています。そして、その実現には、社内の技術革新だけでなく、社外の新技術を取り入れていくことが必要です。幸い当社グループは、新たな技術の導入に対し、とても積極的で柔軟な社風です。そういった点も含め、今回開示しきれなかった事項については、ホームページや、今後のレポートで開示してまいります。また、その他の目標に対しても、数値を設定するだけではなく、実現していくことの難しさと責任は十分に理解しています。具体的な施策を実行することは当然として、さらにチャレンジングな目標を立てられるように、社員の意識を高め、皆で知恵を絞っていききたいと思います。

社会課題の解決につながるような新製品を提供していかななくては、社の持続的な繁栄はあり得ません。当社グループ内の力だけでなく、大学などの研究機関や、ベンチャー企業を含む他社との連携も模索しながら、引き続き「社会に役立つ」新製品の開発に邁進いたします。



大阪有機化学工業株式会社
経営企画本部長
渡辺 哲也